なんだかいつもとは違う。教室を覗くと個性豊かな作品が目に入ってきて、ホールからは沈黙の中響き渡る声に音楽、体育館は熱気の渦に包まれていて、校内中が活気にあふれて賑わっている。この十月祭期間、校内を歩いているとまるで毎日通っている学校でないかのように、いつもとは違う充実感でいっぱいでした。皆さんは十月祭を終える今、何を思いますか。2023年度十月祭、RUNWAY は、今幕を下ろそうとしています。

今年は制限もだいぶ落ち着き、全学年が一日中揃って過ごすことができました。ここ数年の十月祭は時間を区切っての分散登校しかできず、お互いの活躍を存分に見ることが叶わなかったかもしれません。やはり、同じその時に頑張っている友達がいることを感じられる十月祭というのは、どこかでみんなが繋がって、皆で創り、皆で進んでいく行事なんだと改めて感じられたことでしょう。たくさんの準備を経て当日を迎え、賑わう活気は一体感となる、ランウェイの舞台そのもののようでした。

4月から、私たちの十月祭をどのようなものにするか一つの指針となる大切な存在だったこの RUNWAY（ランウェイ）。ですが、私にとってこの RUNWAY という言葉は、基本方針というだけでなくなんだか魔法の言葉のように思います。舞台を作るまでに多くの準備があってこそ、当日ステージが輝く、というように、この言葉を聞くと今まで本当にたくさんのことをやってきた、と思い出さずにはいられません。全てがフラッシュバックしてくるような魔法の言葉です。

私はこの十月祭委員としての活動が大好きでした。全てがうまくいくことばかりではなく、むしろ失敗ばかりだったかもしれないけれど、夢中になれること、好きなこととは、沢山のことを乗り越えてこそ本当の意味で実感できるのだと今だからこそ言えます。

はじめは、前に立つ立場に慣れないことから先輩の姿を必死に真似しようとしたり、模索ではなくうまく乗り切ろう、とどこかで思っている自分がいました。一番初めの仕事は基本方針決めでした。皆思いが強かっただけあり、決定に至るまで沢山の試行錯誤を重ねました。うまく意見がまとまらなかったり、小さなずれが生まれた時も、当たり前のことと分かっていながらも、どう動けば良いか分からない、何をすればよいのだろう、今思えば、そう感じていたように思います。不安を感じる以前に自分の立場の意味をよく理解できていなかったのかもしれません。けれど、いつも一緒に頑張れる大好きな仲間がいて、頑張れる環境で少しずつ十月祭のために動ける幸せが私にとってとても大きいものでした。その中で、次第に自分なりのやり方を模索していくことができたのです。

あやふやなものが、確かな楽しさに変わる瞬間はきっと明確ではなく、友達の存在や小さなきっかけに気づきを得たり、心にやりがいを感じたりという時がその時なのかもしれません。私自身、振り返ると仲間との楽しかった思い出ばかりを思い出すのは、今まで作ってきた確かなものが結果として発揮できたからだと思います。

きっと十月祭はそれぞれの好き、楽しいの集まりなのだと思います。特に十月祭は他学年と関わることが多かったり、普段の学校生活とは違うことが求められる中で、すべてがうまく行くはずがないし、失敗を経験していてもそれは当たり前です。でもそんな中で、達成感を少しでも感じられていたら、それは本当の楽しさや充実を得たということになるのではないでしょうか。十月祭は、学校生活で何かを頑張るうえでのひとつの通過点なのです。ここで得た何かはきっと糧になって私たちをより成長させてくれるはずです。

私はこれからもずっと、毎年10月が訪れるたびに十月祭のことを思い出し続けると思います。選挙をして、沢山十月祭に向き合って。大好きな委員会のみんなと、こうして活動できた時間こそが、私にたくさんのことを気づかせてくれるかけがえのないものでした。今、こうしてスピーチをしているのは私一人ですが、一人では絶対やり遂げられなかったと思います。表にはもしかしたら見えないかもしれない、小さな努力の積み重ねを共にしてきた委員会のみんな、本当に楽しかったです、ありがとう。

私に、こうした思い出があるように、皆さんの中にも忘れられない思い出があるのではないでしょうか。第61回十月祭は今年一度限りです。大切なものを、忘れないでください。今私たちは、長い伝統の中の歴史の 1 ページを完成させました。私の目に映ったそのページは本当に輝いていました。

これから先の十月祭も、進化を続け皆の達成感や喜びが溢れる場であり続けることを願っています。

委員長として活動できた半年間は本当に幸せでした。最後の最後、私たちの集大成、この景色を目に焼き付けながら。本当にありがとうございました。

十月祭行事委員長